豚の主な品種

（社）全国養豚協会「新養豚全書」より
写真提供：（社）日本種豚登録協会より

大ヨークシャー種 [Large Yorkshire または Large White]

ヨークシャー種は、イギリスのヨークシャー州地方において、在来種に中国種、ネアポリタン種およびレスター種などを交配して成立した優良な白色豚で大、中、小の３型ある。

大ヨークシャー種は、ベーコンタイプの代表的な品種として知られており、白色大型の豚で、頭はやや長く、顔面は若干しゃくれている。耳は薄くて大きく、やや前方に向って立ち、背が高く、胴伸びがよく、胸は広く深く、肋張りもよく、背は平直かやや弓状で、腹部は充実して緊りがある。後躯は広く長いが下腿部の充実にやや欠けるようである。

体重は生後６カ月で約90kg、１年で160～190kgに達し、成豚では350～380kgになる。

現在、イギリス、アメリカ、スウェーデン、オランダ等において生肉用豚を生産するための交雑用として広く飼育されており、わが国においても、イギリス、アメリカから輸入され、主として繁殖豚として利用されている。

バークシャー種 [Berkshire]

イギリスのバークシャーとウィルッシャー地方の在来種にシアメース種、中国種およびネオポリタン種などを交雑して成立したもので、1820年頃品種として固定し、1851年以降純粋繁殖が行われている。

体は全体が黒色であるが、顔、四肢端および尾端が白く、いわゆる“六白”を特徴としている。体重、体型ともヨークシャー種に似ているが、顔のしゃくれはヨークシャー種よりややゆるく、耳は直立するかわずかに前方に向って立っており、体型は幾分伸びに欠け、やや骨細である。

本種は強健で、産子数はやや劣るが、哺育は巧みであり、ロースの芯が大きく、肉質が良好で生肉用に適している。体重は７カ月齢で約90kg、１年で135～150kg、成豚で200～250kg程度のものが多い。

ランドレース種 [Landrace]

デンマークの在来種に大ヨークシャー種を交配して成立した秀れた加工用の豚である。白色大型の豚で、頭部は比較的小さく、頬も軽く、顔のしゃくれも殆んどなく、耳は大きく前方に垂れている。体型は胴伸びがよく、前・中・後躯の釣合いがよく、流線型の豚で、背線はややアーチ状を呈し、腿はよく充実している。

本種は産子数多く、泌乳量も多くて育成率高く、繁殖能力がすぐれている。また、産肉能力についても発育が早く、飼料要求率低く、背脂肪もうすくて秀れている。

体重は６カ月齢で約90kg、１年で170～190kg、成豚で350～380kgに達する。

デンマークはもちろんイギリス、オランダ、スウェーデン等において多く飼育されており、わが国にもイギリス、オランダ、スウェーデン、アメリカから輸入され増殖されて、純粋種では最も多く飼育され、種雄豚としても種雌豚としても広く利用されている。

デュロック種 [Duroc]

ニューヨーク州のデュロックと称する赤色豚とニュージャージー州のジャージーレッドとが交配されて成立したもので、従来、デュロック・ジャージー種と呼ばれていたが、現在ではデュロック種と単称されている。

体は赤色（個体により濃淡あり）で、腹部、四肢などに黒斑の出ることがある。顔はわずかにしゃくれ、耳は垂れ、胴は広く深く、腿は深く充実しており、体重は300～380kgで、従来ラードタイプに属していたが、最近ミートタイプに改良されている。

本種は体質強健で産子数も多く、放牧に適し、アメリカにおいてはハンプシャー種とともに多数飼育されている。わが国には戦後最も早く輸入され、一部において草で飼育できると宣伝され、結果的にはあまり歓迎されなかったが、再び改良されたデュロック種が輸入され、飼育されている。

ハンプシャー種 [Hampshire]

アメリカのケンタッキー、マサチュセッツ州の原産で、初期にはスインリンド（Thin Rind）種と呼ばれていたが1904年にハンプシャー種と改名された。

体は黒色で、背から前肢にかけて10～30cm幅の帯状の白斑（サドルマーク）があり、頭の大きさ中等で、頬は軽く、耳は直立し、肩は軽く、体上線は弓状を呈し、もも肉は深く充実している。

本種は産子数はやや少ないが、哺育能力にすぐれ、発育、飼料効率もよく、屠体は背脂肪がうすく筋肉量が多く、もも肉も充実して肉質も良好である。

アメリカにおいては多数飼育されており（登録頭数が最も多い）、わが国において昭和39年頃より再び輸入され、主として交雑用の種雄豚としてかなり利用されている。